

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：胆振地区
- 2 事例報告学校名：白老町立竹浦小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 千葉 康 弘
- 4 キーワード：GIGAスクール構想・遠隔合同授業・同時間接複式授業

1 はじめに

令和5年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2023」（以下、骨太の方針）において、「国策として推進するGIGAスクール構想」と明記された。ここに書かれていなければ予算や法律等は1年間動かないといわれるくらい、大きな意味をもつ骨太の方針に、「国策」と明記されたGIGAスクール構想は、今後さらに加速的に取り組まれる課題となるであろう。

具体的にどのように推進するか。骨太の方針には同日閣議決定された「教育振興基本計画」に基づいて取り組むと明記されている。この計画では「教育DX」「デジタル人材の育成」「ICT環境の整備」と様々なキーワードが盛り込まれている。「遠隔授業」もその一つで、「遠隔」のワードは18回登場しており、その重要性がうかがえる。

本校の研究主題は「自分の考えを広げ、深める子の育成～分かった！できた！楽しい！を生む探究型授業を通して～」である。

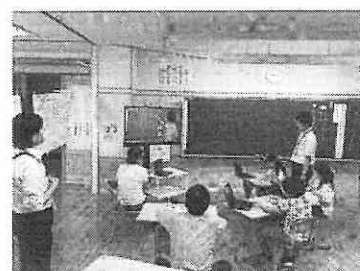
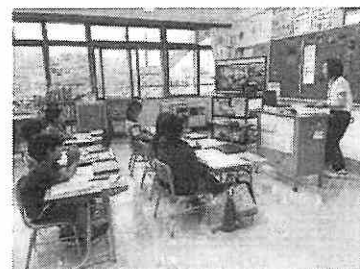
研究内容の一つとして、協働的な学びの実現のために、「ICTを用いた効果的な遠隔授業などの追究」を挙げている。本校は全校児童が26名の小規模校。各学年が少人数であるため、協働的な学びの場の確保が喫緊の課題である。

そこで、隣の白老町立虎杖小学校と合同学習や「遠隔合同授業」を行うことで、協働的な学びの場の確保と充実を図っている。

2 同時間接遠隔合同授業に向けた虎杖小学校と竹浦小学校との合同研修

遠隔合同授業の円滑な実施及び授業改善に向けて、両校で年5回ほど合同研修を行っている。

【4】同時間接遠隔合同授業「2人1組活動」3・4年合同 協議書		
3年生 「夏のかたち」 4年生 「夏のまじまじ」		
【指導要領】 〔4年国語・3年生〕 （1）本時の目標（知識・技能） 「言葉の性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。」 （2）本時の展開		
時間	学習内容	備考・評価
(5分) 導入	① 授業導入 夏のイメージを話し合う。（暑い、お祭り、夏休み、楽しい） ② 本時の展開 先生が読み聞かせし、児童が夏をイメージする。 自分の言葉で、夏のイメージを表現する。 ③ 振り返り 自分の言葉で、夏のイメージを表現できたか振り返る。	・授業内容のねらいがぶれないようにする。
(10分) 本時の展開	④ 児童が自分の言葉で、夏のイメージを表現する。 ⑤ 先生が児童の表現を聞き、児童の表現を評価する。 ⑥ 児童が自分の表現を聞き、先生の評価を聞き、自分の表現を改善する。 ⑦ 先生が児童の表現を聞き、児童の表現を評価する。 ⑧ 児童が自分の表現を聞き、先生の評価を聞き、自分の表現を改善する。	・児童がタイムマネジメントをしながら取り組めるようにする。 ・児童の表現を聞き、先生の評価を聞き、自分の表現を改善する。
(10分) 振り返り	⑨ 先生が児童の表現を聞き、児童の表現を評価する。 ⑩ 児童が自分の表現を聞き、先生の評価を聞き、自分の表現を改善する。	・児童の表現を聞き、先生の評価を聞き、自分の表現を改善する。
(5分) 終了	⑪ 先生が児童の表現を聞き、児童の表現を評価する。 ⑫ 児童が自分の表現を聞き、先生の評価を聞き、自分の表現を改善する。	・5分間のタイムマネジメントをしながら取り組めるようにする。



また、両校担任で相談をして単元等を決め、遠隔合同授業や遠隔交流学习等を適宜実施

※上記は、同時間接遠隔授業の授業プラン。左が3年生（T1 竹浦小学校）

右が4年生（T1：虎杖小学校）。

複式学級同士の遠隔合同授業においては「同時間接遠隔合同授業」に取り組んでいる。

日常の複式授業において、それぞれの学年で児童自ら授業を進め学んでいく「同時間接授業」を行い、児童の主体的な学びを担当が支援する授業を進めている。

遠隔合同授業時もそれぞれの学級で「同時間接授業」を行うことにより、遠隔授業においても担任が必要に応じていずれの学年にも適宜指導支援できる体制を確保することができる。さらに、学習支援員の活用で児童への直接的な指導の充実を図っている。

3 遠隔合同授業実施に向けて

全道へき地複式教育研究大会の会場校であった虎杖小学校の研修を中心に、両校で合同研修を重ね、次のような準備等を進めてきた。

○遠隔合同授業に関する事前準備

- ・合同遠隔授業の日程調整
- ・遠隔授業を行うための合同研修、研究内容の検討
- ・接続方法についての検証・検討
- ・持続可能な遠隔合同授業

○負担感のない効果的な遠隔合同授業

「必要な時に、必要な授業で」効果的な遠隔授業の実施

①複式双方向型

- ・学年ごとに担任が分かれて指導
- ・メリットは、それぞれの学年に教員がつくこと
- ・指導と評価の一体化には課題

②一体型

- ・2学年が同じ授業を行うことが可能な教科・領域で、双方向をつなぐやり方。最もシンプルに実施可能。

③同時間接授業同士の複式型

- ・同時間接授業をそれぞれつなぐ方式
- ・接続等を含め難易度は高い（右図：教室配置図）
- ・両校の学習手順等をそろえる必要あり
- ・授業の土台となる部分の研修が必要

○遠隔合同授業の共通事項

「遠隔合同授業による授業づくり」

①日課の調整

②授業の組み立て方が若干異なる。両校の研修で授業の型等を協議

③機器の効果的な接続方法について。機器の接続方法等、遠隔合同授業の実施に向けての協議

④必要な学習ルールについて（遠隔合同学習のルール）

- ・フリートーク時は挙手ボタンを活用
- ・発表の話型の設定
- ・発表には拍手やチャットで反応
- ・チャット時の正しい言葉遣い

令和5年度全道へき地複式教育研究大会において、虎杖小学校と竹浦小学校による「同時間接遠隔合同授業」を公開した。外部へのZoom配信等もあり、かなり難易度の高い取組となったが、これまでの共同研究の積み重ねの成果が現れ、外部からも「単式複式問わず、主体的な学びを実現する授業の在り方」とよい評価をいただいた公開授業となった。

4 おわりに

右はある日の学校の様子。日常の中に遠隔授業がある。この一週間で計3回実施されていた。

「国策」GIGAスクール構想。現場での実現には、足元の取組を日々積み重ね、日常化していくことが不可欠である。

